



くまがみね

学校だより
2024 (令和6) 年5月1日
福山市立熊野小学校

熊野小学校だからできること、熊野小学校にしかできないことに 挑戦!

運動会へ向けて ～ 全校表現「熊野っ子ソーラン」～

今年度の運動会では、全校が一つの表現種目に取り組みます。「ソーラン」は、昨年度の3・4年生、現4・5年生が演じた表現種目です。したがって、全校で練習を始めるときには、4・5年生に「お手本」になってもらうことができました。

限られた配当時間で練習を積み重ねています。低・中・高のそれぞれの学年らしさも表現しながら、全校が一つの曲を表現することで、熊野小学校らしさも感じてもらえると思います。79名が動きを揃えるとどんな演技になるのか楽しみです。



どこまで腰を落として低い姿勢を保つことができるか、動くところと止まるところのメリハリを効かせることができるか、これがポイントです。

学校の「働き方改革」はどこまで進むのか



～ すべては「子どもと向き合う時間」を確保するため ～

文部科学省の諮問機関、中央教育審議会では、将来的には教員の時間外勤務時間を月に20時間までにするという方向性を出しています。月に20時間、換算すると1日では1時間。1日に1時間しか時間外勤務をしないということであれば、実際には朝の勤務開始時刻ぎりぎりに出勤することはないため、朝の時間で既に30分から1時間は超過しています。したがって放課後は、勤務終了時刻と同時くらいに退校するのが理想となります。

数年後にはこのような時間の使い方が「あたりまえ」になるのだろうと考え、本校では今年度より定時に退校することを原則に取組を始めています。限られた時間で最大の成果を上げるためには、これまであたりまえのようにやってきた学習活動を見直し、削減できるものは思い切って廃止する、縮小する、形を変えて実施するなどの工夫をしていく必要があります。

全ては先生方が「子どもと向き合う時間」を確保するため。子ども達のために「いいと思われる」取組をやればきりがありません。その結果、先生たちが疲弊しては本末転倒です。様々な理由で、本来の教員定数に満たない学校が日本中にどれだけ存在するでしょう。先生が足りないという現状は今後も続きます。

新たな学びの実現による学校教育の質を向上させることが求められています。そして、このような学びは、より高度な指導力を必要とするものであり、現職教員の指導力向上とともに、教職の魅力を向上させ、教育界内外から教師に優れた人材を確保し続ける環境が必要なのだろうと思います。若い世代の人達に、将来、教師という職業を選んでもらえるよう、魅力的な学校現場をつくっていかうと考えています。